

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-111	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世探705	高校世界史		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- ・世界史の大きな枠組みと展開を理解・考察できるように、本文はやや詳しい事項は省き叙述する一方、「人物コラム」や「探究しよう」などの囲み記事を設け、「幅広い知識と教養を身に付ける」ことができるよう留意した。
- ・学習指導要領に沿って、部扉ではその時代の「観点」を示して学習の動機付けにすると共に、構造的な理解につながるよう留意した。
- ・巻頭付録では2・8・13・16・19世紀の世界を取り上げ、同時代の特徴を概観できるようにした。
- ・各章・各節に問いを設けることによって学習の目的を明確にし、要点を押さえられるようにした。また生徒の興味・関心を引き出す図版を豊富に掲載し、読み解きを促す問いを設けた。節末には視点を変えた問いをさらに設け、これら一連の活動によって「真理を求める態度を養う」ことができるよう留意した。
- ・「探究しよう」の囲み記事では当時の人々の考えを示す複数の資料を取り上げ、多面的・多角的に読み解く活動を通して「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことができるよう留意した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- ・生徒が主体的に学習できるよう様々な問いを設定した。節末の問いでは「あなたは…どう考えるか」など、生徒自身が根拠に基づいて自分なりの考えを表現できるよう問いを工夫することで、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことができるよう留意した。
- ・「人物コラム」を設け、性格やエピソードも交えて個人が歴史に及ぼした影響について考えられるようにした。

- ・第 I 部を通して身分や生業について記述し、産業革命期の労働者と生活、日本における男女雇用機会均等法などの女性の権利拡大などの歴史的経緯を学ぶことによって「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第 2 条第 3 号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・国際連盟や国際連合の機能とその課題、地域紛争が多発する現代における国際連合の役割と安全保障の問題などの事例を通して、「正義と責任」について考察できるよう留意した。「男女の平等、自他の敬愛と協力」については、各資料からジェンダーについて課題を追究する活動を通して考察できるよう留意した。
- ・第 19 章の結びの記述では、多極化の時代における国連の役割、国際協力における非政府組織や自治体の役割、感染症や災害に対しては国家や地域を越えた協力の重要性について述べ、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第 2 条第 4 号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・「世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史」において、気候変動などが人類に与える影響について事例とともに記述し、自然環境の変化に対する問題意識が高まるように留意した。
- ・近代化による人口増加や経済成長がもたらす環境汚染、原子力発電所事故が環境に与える影響などを記述し「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第 2 条第 5 号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・世界の歴史を通して、日本と世界の国々の政治・経済・社会・文化あるいはそれらの相互作用について理解を深められるよう留意した。国際社会のなかで生きる市民としての自覚を促し、様々な課題とその解決について主体的に考察できるよう、豊富な資料や問いを設定した。これら一連の活動を通して「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
2世紀の世界、8世紀の世界、 13世紀の世界、16世紀の世界、 19世紀の世界 世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史	* 「〇世紀の世界」では各世紀の地図を見開きで大きく扱い、図版と解説を付して特徴を捉え、概観できるようにした(第1号)。	p.4~13
自然環境と人類の進化	* 「世界史へのまなざし①」では、地球の歴史と人類の歴史の時間の尺度の違いについて	p.14~17

<p>世界史へのまなざし②</p> <p>日常生活からみる世界の歴史</p> <p>料理からみる世界のつながり</p> <p>ミュージアムの歴史</p> <p>家族の歴史</p>	<p>て問いを元に考察したり、地球環境が人間の歴史に及ぼす影響について理解し、環境問題について課題意識を持つようにした（第4号）。</p> <p>*「世界史へのまなざし②」では、それぞれ日本と世界の「料理」「ミュージアム」「家族」を取り上げ、各種資料を活用し、身近な事象が世界の歴史とつながっていることに気づくようにした（第1号）（第5号）。「家族」ではジェンダー=ギャップ指数など示し、現代における課題に気づくようにした（第3号）。</p>	<p>p.18～24</p>
<p>第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>第Ⅰ部へのアプローチ</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明的特質</p> <p>1 文明の誕生</p> <p>2 古代オリエント文明とその周辺</p> <p>3 南アジアの古代文明</p> <p>4 中国の古代文明</p> <p>5 南北アメリカ文明</p> <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <p>1 中央ユーラシア</p> <p>2 秦・漢帝国</p> <p>3 北方民族の活動と中国の分裂</p> <p>4 東アジア文化圏の形成</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <p>1 仏教の成立と南アジアの統一国家</p> <p>2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着</p> <p>3 東南アジア世界の形成と展開</p> <p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <p>1 イラン諸国家の興亡とイラン文明</p> <p>2 ギリシア世界</p> <p>3 ローマと地中海支配</p> <p>4 キリスト教の成立と発展</p> <p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>1 アラブの大征服とカリフ政権の成立</p> <p>2 ヨーロッパ世界の形成</p>	<p>*第Ⅰ部へのアプローチでは、ウルのスタンダードの読み解きを通して、王権や身分などの古代の歴史的特質に気づき、生徒自ら疑問点などを表現できるようにした（第2号）。</p> <p>*第1章の「探究しよう」ではハンムラビ法典の資料を探究して、身分による刑罰の違いに気づくようにした（第3号）。</p> <p>*第2章の「探究しよう」では唐代の貴族の女性について探究し、時代によって女性の活動の様子が異なることに気づくようにした（第3号）。</p> <p>*第3章の「探究しよう」ではヒンドゥー教について探究し、他国の宗教・文化について見識を深められるようにした（第5号）。</p> <p>*世界史のなかで日本と近隣諸国の関わりや文化の伝播について理解できるよう叙述した（第5号）。</p>	<p>p.26～27</p> <p>p.31</p> <p>p.54</p> <p>p.59</p> <p>p.49、53、64、76</p>

<p>第Ⅱ部 諸地域の交流・再編</p> <p>第Ⅱ部へのアプローチ</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向 <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 西ヨーロッパの封建社会 2 東ヨーロッパ世界 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 中世文化 <p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宋とアジア諸地域の自立化 2 モンゴルの大帝国 <p>第9章 大交易・大交流の時代</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容 <p>第10章 アジアの諸帝国の繁栄</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域 <p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想 	<p>*第Ⅱ部へのアプローチでは、活発な都市の様子を読み取る活動を通して、諸地域の交流の広がりについて生徒自ら疑問点などを表現できるようにした（第2号）。</p> <p>*第6章の「探究しよう」では世界各地に伝播したイスラーム文化について、伝統と文化が融合されたモスクを例に探究し、他国の文化について見識を深められるようにした（第5号）</p> <p>*世界史のなかで日本と近隣諸国の関わりや文化の伝播について理解できるよう叙述した（第5号）。</p> <p>*第11章の「探究しよう」では30年戦争の惨禍から平和条約が結ばれたこと、主権国家体制が確立されたことを通して国際平和への取り組みについて考察できるようにした（第5号）。</p> <p>*奴隷貿易とアフリカの人口に関する資料を取り上げ、人権侵害のみならずその影響の大きさを考察できるようにした（第3号）。</p>	<p>p.92～93</p> <p>p.97</p> <p>p.118、119、121、127、128</p> <p>p.149</p> <p>p.153</p>
<p>第Ⅲ部 諸地域の結合・変容</p> <p>第Ⅲ部へのアプローチ</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立 <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ウィーン体制と政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 <p>第14章 アジア諸地域の動揺</p>	<p>*第Ⅲ部へのアプローチでは、交通革命によって南・東南アジアからのメッカ巡礼者数が増加したことを読み取り、それがのちの民族運動にも影響したことに気づくようにした（第1号）。</p> <p>*第12章の「探究しよう」では産業革命によって労働力構成に変化が生じたこと、労働者の生活が変化したことを探究し、現代の「第4次産業革命」ともつながって技術革新が職業や生活に影響をもたらすことに気づくようにした（第2号）（第3号）。</p>	<p>p.160、161</p> <p>p.164</p>

<p>1 西アジア地域の変容</p> <p>2 南アジア・東南アジアの植民地化</p> <p>3 東アジアの激動</p> <p>第15章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>1 第2次産業革命と帝国主義</p> <p>2 世界再分割と列強の対立</p> <p>3 アジア諸国の変革と民族運動</p> <p>第16章 第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動</p> <p>第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p> <p>1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊</p> <p>2 第二次世界大戦</p> <p>3 新しい国際秩序の形成</p>	<p>*第15章の「探究しよう」では「中国」の国名の由来について探究し、それぞれ自国の伝統や文化を尊重する態度を養うようにした(第5号)。</p> <p>*日本の歴史について、世界史のなかで理解できるよう叙述した(第5号)。</p> <p>*第二次世界大戦が多くの犠牲者を生んだこと、核戦争の脅威をもたらすことになったこと、女性の参政権をはじめとする両性の同権化が進んだことなどを記述し、平和や平等について考察できるようにした。(第3号)(第5号)</p> <p>*第17章の「探究しよう」ではニュルンベルク裁判について探究し、その公平性について考察を促した(第1号)(第3号)。</p>	<p>p.210</p> <p>p.199、200、210、211、227、228、239～242</p> <p>p.242</p> <p>p.245</p>
<p>第IV部 地球世界の課題</p> <p>第18章 冷戦と第三世界の台頭</p> <p>1 冷戦の展開</p> <p>2 第三世界の台頭とキューバ危機</p> <p>3 冷戦体制の動揺</p> <p>第19章 冷戦の終結と今日の世界</p> <p>1 産業構造の変容</p> <p>2 冷戦の終結</p> <p>3 今日の世界</p> <p>4 現代文明の諸相</p> <p>地球世界の課題の探究</p>	<p>*第IV部の扉では、冷戦から今日までの紛争について扱い、現代の課題として認識できるように留意した(第3号)。</p> <p>*第18章の「探究しよう」ではベトナム戦争に日韓はどのように関わったのかを探究し、反戦運動や学生運動などの社会運動についても考察を促した(第1号)(第3号)。</p> <p>*地球環境問題や温暖化について資料を豊富に掲載し、現代の課題として環境の保全に寄与する態度を養うようにした(第3号)。</p>	<p>p.249</p> <p>p.260</p> <p>p.277、278</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。
- ・二次元コードを付し、資料を参照して、より深い学びにつなげられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-111	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世探705	高校世界史		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

A歴史の大きな流れを理解できる構成

●適切な文章量と豊富な図版

- ・標準単位数3単位で授業を行うことを前提として、やや詳しいと思われる事項・事柄は省き、世界史の大きな枠組みと展開を理解・考察できるように留意した。
- ・図版は豊富に掲載し、興味を持って読み解けるよう適宜問いを付した。地図は正確でわかりやすい作図に留意した。
- ・図版には節ごとに番号を振り、本文の該当部分にも付して、関連をわかりやすくした。
- ・本文の流れを妨げないよう、補足的な事項は注で扱った。

●内容の理解・定着に配慮した構造的な問い

- ・節ごとに、以下のように段階的な問いを設けた
 - ▶導入「節の問い」…学習の目標・要点が簡潔に表された問い
 - ▶展開「各図版の問い」…節の問いにも連動した、資料を用いて様々な観点から考える問い
 - ▶まとめ「節末の問い」…「節の問い」とは視点を変えた問いや、「あなたはどうか考えるか」など自身の考えを根拠と共に説明させる問いなど、節の内容をより深く理解できるように配慮したまとめの問い

●学習の導入や振り返りに活用できる「○世紀の世界」(p.4～13)

- ・2世紀・8世紀・13世紀・16世紀・19世紀の世界図と、その時代の概観を簡潔に示した。
- ・各世紀の特徴が一望でき、時代のイメージが掴みやすいよう、地図や図版の内容に配慮した。

●時代の特徴を捉える「部扉」と「アプローチ」

- ・各「部扉」および「部へのアプローチ」はテーマ(観点)を設け構成した。これから学ぶ時代の特徴をイメージし、興味・関心・疑問を引き出すよう留意した。観点の例として、第I部では王権・

身分・階級など（p.25～27）、第Ⅱ部では諸地域の交流と都市（p.91～93）、第Ⅲ部では交通の発達（p.159～161）、第Ⅳ部では紛争（p.249）を取り上げた。

B 課題を追究したり解決したりする活動を促す項目

●思考力を養う「探究しよう」のページ

本文の内容をより深める 28 個の「探究しよう」のページを設けた。それぞれ半ページから 1 ページ程度の取り組みやすいボリュームで構成した。世界史学習を通して様々な事象に興味を広げられるよう、社会・経済・法や裁判など、多様なテーマを取り上げるよう留意した。資料の読み解きの技能を高めるだけでなく、問いには適宜「調べてみよう」など発展的な要素も盛り込み、主体的な活動に結び付くようにした。

例：イスラーム文化の多様性をモスクから考えてみよう（p.97）

中国製品は、なぜ世界で人気だったのだろうか（p.126）

自由貿易には、どのような期待が込められていたのだろうか（p.176）

ニュルンベルク国際軍事裁判では何が裁かれたのだろうか（p.245）

中東の情勢に、アメリカはどのように関わっていたのだろうか（p.269）

●データで見る「世界史へのまなざし」

「世界史探究」の導入となる「世界史へのまなざし」は、身近なテーマを取り上げ、興味を引く絵画・写真のみならず、「地球温暖化が関係していると考えられる現象」（p.17）、「海外における日本食レストランの数」（p.19）、「ジェンダー＝ギャップ指数」（p.23）など、数値などから読み解く資料も豊富に掲載した。特に日本を含めた現在の状況を数値で確認することによって、より具体的に、当事者意識を持って今につながる歴史への学習意欲につながるよう配慮した。

●豊富な人物コラム

80 名の人物をコラムとして取り上げた。本文では取り扱わない性格やエピソードも交え、人物を通して歴史への興味・関心が高まるよう配慮した。

●二次元コードの活用

探究活動のために読みときたい図版や条文を中心に、二次元コードを活用した資料を 21 個設けた。

C 地図や資料を読み解く技能の習熟

・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。

・グラフに関しては、大学入試でも取り上げられる統計などを積極的に活用した。

例：東インド向けヨーロッパ船の数（p.150）、欧米諸国の工業化の進展（マクミラン世界歴史統計より。p.186）

・文字資料に関しては、段階的に分量を増やし、無理なく技能が向上するよう配慮した。

・中世都市と現代日本の生活を五感で比べたり、開封の街の想像図を描いたりなど、想像的・作業的な体験もできるように留意した（p. 103、117）。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化	A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る人類の歴史	p.14～17	1
世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 料理からみる世界のつながり ミュージアムの歴史 家族の歴史	(2) 日常生活から見る世界の歴史	p.18～24	1
第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第Ⅰ部へのアプローチ	B 諸地域の歴史的特質の形成 (1) 諸地域の歴史的特質への問い	p.25～27	1
第1章 文明の成立と古代文明の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	(2) 古代文明の歴史的特質	p.28～41	4
第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 北方民族の活動と中国の分裂 4 東アジア文化圏の形成	(3) 諸地域の歴史的特質	p.42～90	5
第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開			3
第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア世界 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展			6
第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 1 アラブの大征服とカリフ政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成			4

第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	C 諸地域の交流・再編		
第Ⅱ部へのアプローチ	(1) 諸地域の交流・再編への問い	p.91～93	1
第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	(2) 結び付くユーラシアと諸地域	p.94～131	3
1 イスラーム教の諸地域への伝播			
2 西アジアの動向			
第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開			6
1 西ヨーロッパの封建社会			
2 東ヨーロッパ世界			
3 西ヨーロッパ世界の変容			
4 中世文化			
第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国			3
1 宋とアジア諸地域の自立化			
2 モンゴルの大帝国			
第9章 大交易・大交流の時代			4
1 アジア交易世界の興隆			
2 ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容			
第10章 アジアの諸帝国の繁栄	(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	p.132～158	3
1 オスマン帝国とサファヴィー朝			
2 ムガル帝国の興隆			
3 清代の中国と隣接諸地域			
第11章 近世ヨーロッパ世界の動向			7
1 ルネサンス			
2 宗教改革			
3 主権国家体制の成立			
4 オランダ・イギリス・フランスの台頭			
5 北欧・東欧の動向			
6 科学革命と啓蒙思想			
第Ⅲ部 諸地域の結合・変容	D 諸地域の結合・変容		
第Ⅲ部へのアプローチ	(1) 諸地域の結合・変容への問い	p.159～161	1
第12章 産業革命と環大西洋革命	(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	p.162～200	5
1 産業革命			
2 アメリカ合衆国の独立と発展			
3 フランス革命とナポレオンの支配			
4 中南米諸国の独立			
第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成			7
1 ウィーン体制と政治・社会の変動			
2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成			
3 アメリカ合衆国の発展			
4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄			

第14章 アジア諸地域の動揺			5
1 西アジア地域の変容			
2 南アジア・東南アジアの植民地化			
3 東アジアの激動			
第15章 帝国主義とアジアの民族運動	(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	p.201～231	7
1 第2次産業革命と帝国主義			
2 世界再分割と列強の対立			
3 アジア諸国の変革と民族運動			
第16章 第一次世界大戦と世界の変容			6
1 第一次世界大戦とロシア革命			
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国			
3 アジア・アフリカ地域の民族運動			
第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	p.232～248	7
1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊			
2 第二次世界大戦			
3 新しい国際秩序の形成			
第IV部 地球世界の課題	E 地球世界の課題	p.249	
第18章 冷戦と第三世界の台頭	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正	p.250～276	4
1 冷戦の展開			
2 第三世界の台頭とキューバ危機			
3 冷戦体制の動揺			
第19章 冷戦の終結と今日の世界			7
1 産業構造の変容			
2 冷戦の終結			
3 今日の世界			
4 現代文明の諸相	(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	p.277～278	
地球世界の課題の探究	(4) 地球世界の課題の探究	p.279	2
		予備	2
		合計	105